

おもしろいね！が、きっとみつかる。

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

みやシニア
活動センター
通信 vol.27
(平成29年4月発行)

気持ちも若々しくバイタリティあふれるシニア世代

今回は、出版界でブームとなっている自分史活動をされている「栃木自分史友の会」、富士見地区で長きにわたり地域社会のために活動をされている富士見地区地域まちづくり推進協議会長の岡村光教さん、宇都宮の歴史をもっと知ってもらいたいと城址公園内のガイドやまちなかガイドをされている「宇都宮市文化財ボランティア協議会」、栃木県シルバー大学校で学びながら宇都宮の観光ボランティアをされている和気俊夫さんと和子さん夫妻取材しました。

- ① 「栃木自分史友の会」
- ② 長きにわたり地域社会のために・・・岡村光教さん
- ③ 宇都宮の歴史をもっと知ってもらいたい「宇都宮市文化財ボランティア協議会」
- ④ 夫婦で宇都宮の観光ボランティア・・・和気俊夫・和子さん夫妻

①



②



③



④



「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

最近、出版界でも自分史ブームがもてはやされています。私自身は10余年前から書き始め、パソコンで自分なりに小冊子化しているが独りよがりの感は否めないところです。

そして2,3年前に市の講座講師を務め、この道の先達である大出京子先生の紹介で自分史ブームの先駆けを果たしてきた「栃木自分史友の会」を紹介され入会しました。

「栃木自分史友の会」は、平成元年10月に現井上副会長が主催して「自分史の作り方」の公開講座を開催し、その時の参加者にサークル活動と呼びかけて、翌年2年1月に22名で結成されました。会員は宇都宮市を中心に他市町からも参加しています。

その後の「栃木自分史友の会」の歩みをみますと、下野新聞をはじめ朝日新聞等のコラム欄に



【栃木自分史会のメンバー】

多く紹介されています。その中には、本県での自分史研究のフロンティアであるとも紹介されています。当時の参加者は60代から70代の人たちで、主に戦時体験談が書かれ、自分の思いを後生に伝えることが使命だと語られていたとのこと。私自身、自分史ブームがその頃から続いているとは気付かず知りませんでした。

以降、現会員は森島邦昭会長、井上副会長以下15名、女性も含め今も60歳以上の会員が多く、会も本年で27年目を迎えます。毎月の定例会は印刷業をしている井上副会長の会社研修所で行っています。

会則には、「お互い制作目標達成のため協力し会員相互の親睦を図ることを目的とする」と書かれており、具体的活動内容は、文章の書き方研修、会員相互の情報交換、親睦会の開催、そしてその年の集大成として「つれづれ栃木」を発行することとなっています。

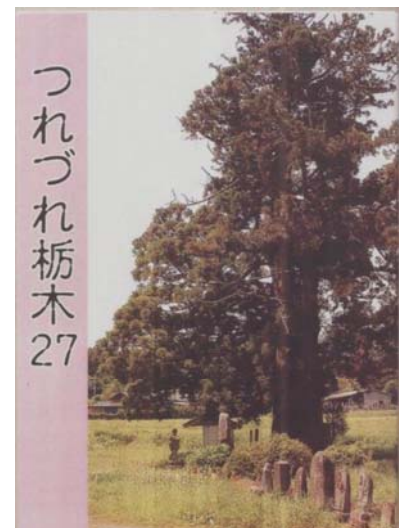
定例会では毎月2名の原稿を会員各自が誤字、脱字、文の重複から書き手の思い込みや表現方法をチェックし、時には厳しすぎる程の合評を行っています。

書く内容も時代と共に変化して自分史のほか、各自の趣味等多彩な内容でバラエティーに富んでいます。自身が生きてきた証に書き残すにしても、読み手に正しく伝わるか否かの手法は難しく、各自の意見は大いに参考になります。皆々先輩たちの手法は素晴らしい。最後に講師の大出先生による講評と参考文を紹介解説していただいた後、雑談して親睦をはかり散会しています。

平成29年も3月に1年の集大成として会員の作品を掲載した「つれづれ27号」が発行され、1年の成果を手にする事ができました。



【井上副会長の会社研修所での定例会】



② 長きにわたり地域社会のために・・・岡村光教さん 取材:古谷野特派員



【富士見地域まちづくり推進協議会長の岡村さん】

今、市内の多くの自治会や町内会が抱えている問題は、地域住民の高齢化や無関心層の増加に伴う役員への負担の集中や一年交代の持ちまわりなど、様々なことが起こっていることだと思います。

この様な現状の中、県立博物館の南、富士見小学校を中心に位置する富士見地区の地域まちづくり推進協議会長や連合自治会長など地域をまとめるキーパーソンとして活動している岡村光教(みつのり)さんにお話を伺いました。

岡村さんが地域活動に足を踏み入れたのは、30歳の頃に引き受けた育成会の役員がきっかけとのこと。その後、青少年指導員を30年務めるほか、地

区の重要な役を次々と引き受け70歳半ばの今日まで長きにわたりご活躍されています。

現在、最も腐心されていることは、地区の活性化や地域住民の交流と融和を図ること、また担い手の底辺の拡大と後継者の育成、地域を取り巻く状況に合わせた活動の在り方などだそうです。

特に、次の世代の後継者については、現役世代が地域活動に触れる数少ない機会とも言えるPTA活動を重視し、PTA役員が抵抗なく地域活動にも繋がるよう世代を超えた親密な関係を築けるよう心掛けているとのことでした。また、地区の行事などへの協力が得にくくなっていることについては、単なるお知らせの通知だけではなかなか人が集まらない現状があるので、各参加団体に割り振るなどしてできるだけ参加をお願いしているそうです。

地域の取り組みの中では、下校途中の小学生が被害にあった今市事件が発生する前に、他の地区に先駆け、地区の子供に対する不審者の情報をもとにした「防犯パトロール隊」を組織し学童に対する見守りが出来たことや、お年寄りを対象とした昼食会を定期的に行き開催し毎回定員を超える申し込みがあり参加者の皆さんからとても喜ばれているそうです。

活動の中で嬉しく感じることは、育成会の役員や青少年指導員を長年にわたり引き受けてきたことから、当時の子供たちが成長し親となりPTAの行事の際などに「あの時はお世話になりました」とお礼の言葉や挨拶される時は「本当に苦勞が報われます」とお話ししてくださいました。

多くのお話をお聞きする中、ご本人はさりげなくお話しになりましたが、これはとても真似はできないと思ったことは、市から委嘱を受けなんと12年間の長きにわたり交通指導員を引き受けておられたことでした。

口では12年と簡単ですが、天気の日ばかりではない毎朝、子供の通学時欠かさず交差点に立ち安全な登校を見守ることは並大抵のことではできません。交通指導員を引退したのも定年が70歳とのことでしたが、続けてくても出来ないのでは辞めたとお話を伺い本当に頭の下がる思いでした。

今の世の中は、日常生活の中で地域の必要性を感じにくくなっていると言われてはいますが、地域は自然にできるものではありません。そこに暮らす皆が関わり合いながら守り育てていくものだと思います。

常日頃から顔を合わせている隣近所の方達が緊急時や大きな災害時には一番頼りになることは、過去の経験から明らかですので富士見地区の地域活動が今後も継続していくために、地域のリーダーとして岡村さんのますますのご活躍を願うものです。



③ 宇都宮の歴史をもっと知ってもらいたい「宇都宮市文化財ボランティア協議会」

取材:石井特派員

「宇都宮市文化財ボランティア協議会」(会長 上野とも子氏)は、「宇都宮城址公園」ができた平成 19 年から公園内の「ものしり館」で、毎日解説や要望に応じての城内ガイド、まちなかガイド(6コース)などを行っています。市主催のガイド養成講座修了後、会員になった方が多く、現在、約120名の会員が交代で務めているそうです。

「ものしり館」では、青い上着の会員の方が見学者を温かく迎えてくれます。江戸時代の宇都宮城下の絵地図やその模型での解説では、28代城主本多正純の町づくり、奥州・日光街道の宿場町、二荒山神社の門前町、将軍の「日光社参」の宿城宇都宮城、寺を町の周辺に配し、奥州雄藩を意識した北の守りの町等、江戸時代の重要な都市であったことが分かります。また、宿城宇都宮城の絵図面をもとに再現した宇都宮城本丸の模型では、天守閣はなく、大きなお屋敷で、城主は住まず、時の将軍が日光社参の時だけ宿泊したとのこと。さらに宇都宮氏5代頼綱が、当時の和歌の第一人者藤原定家に和歌の選定を依頼して生まれた小倉百人一首のことや、江戸末期に戊辰戦争の戦場になり、宇都宮城は焼け落ち市街地も焼土と化したなど、豊富な知識等をもとにした丁寧で熱い解説に、宇都宮への関心が一層高まりました。



【宇都宮城址公園内の「ものしり館」での案内】

今回、会員3人がガイドを務める、シルバー大学生(約30人)の現地研修としてまちなかガイドのコースの1つ、「戊辰戦争ゆかりの地を歩く」に同行させていただきました。

まず、宇都宮城本丸跡に立つ「宇都宮城址公園」。戊辰戦争当時の城主の墓などがある「英巖寺跡」。宇都宮藩卒の官修墳墓や汗かき阿弥陀、郷土の偉大な画人菊地愛山の墓などがある「一向寺」。六道の辻の戦で亡くなった新政府軍士の官修墳墓や薩摩藩戦死者の墓などがある「報恩寺」。新政府軍と旧幕府軍が衝突した激戦地で、今でも地元の人が手厚く管理している、六道の辻にある「戊辰役戦士墓」。桑名藩兵同士が敵味方に分かれて戦い、この地で命を散らし、葬られた2つの墓のある「光琳寺」。「武家屋敷」の名残を留める鉤型の道筋を辿り国道を渡って、宇都宮城土塁跡の「縣家の土塁」。土方歳三が怪我を負ったといわれる激戦地の「松ヶ峰門跡」。宇都宮城を一望する



【市文化財ボランティアの皆さん】

る狸坂を下り、ゴール。見所たくさんコース。3人の工夫を凝らした分かりやすいガイドのお陰で、戊辰戦争のすさまじさ、悲惨さを感じ、普段何気なく通り過ぎている所が貴重な「歴史の証」なのだと思えて気付かされ、まさに「知れば楽しい宇都宮」。もっと巡り歩き、知りたかったです。参加者からの、このボランティアをするには?の質問で関心の高さが分かりました。

興味、希望のある方は、宇都宮市教育委員会文化課 : Tel028-632-2767 へ

④ 夫婦で宇都宮の観光ボランティア・・・和気俊夫・和子さん夫妻

取材：肥後特派員

最初に和気さんからのクイズです。我が宇都宮に関する問題です。皆さん考えてください。
『宇都宮はかつては門前町？ 宿場町？ 城下町？』（答えは文末にあります。）」



【松が峰教会を案内「地域デビュー講座」】

たい、宇都宮のために何かしたい」という気持ちでいっぱいでした。

そんな矢先、市主催の「観光ボランティアガイド養成講座」の開催を知りすぐ応募しました。そして修了後、現在の活動に従事するようになりました。しかし、宇都宮は二荒山神社や宇都宮城、城址公園、由緒ある古刹、松が峰協会など歴史のあるまちで、専門的な知識が必要な場所が多くあります。それが分かると「文化財ボランティア養成講座」を受講し、さらにシルバー大学中央校に35期生として入学し、勉強しました。現在一般社団法人「うつのみやシティガイド協会」に所属し、昨年は、観光ガイドや宇都宮市民対象の企画ツアー等のガイドで延べ80回以上こなし、また理事の立場で講座の

宇都宮城址公園で、大谷資料館で、うつのみや百景ツアーで、あるいはみやシニア活動センター主催の「地域デビュー講座」等で和気俊夫さんは、八面六臂に活躍されています。また奥様の和子さんもJR宇都宮駅を中心に外国の観光客の方のためにボランティアとして活躍中です。今回はこのご夫婦の活動を紹介します。

俊夫さんは昭和23年生まれ。5年前まで大手石油会社に勤務し、新幹線で都内まで通勤するいわゆる栃木都民でした。特に歴史に興味があることもなく、何か目的があった訳でもありませんでしたが、「退職したら宇都宮に役に立ち



【宇都宮の歴史講義「地域デビュー講座」】

開催にも尽力されています。土日祝日はほとんど自宅にいることはないとのこと。

「うつのみやシティガイド協会」は、県内外をはじめ外国からの観光客に対して観光ガイドの活動を行っている団体です。スタートして10年以上が経ち、昨年4月には任意団体から一般社団法人に衣替えして新たなスタートを切りました。現在55名の会員がおりますが、さらに会員を増やそうと養成講座も行っています。

奥様の和子さんも俊夫さんとは別のグループですが、興味ある語学を生かして外国の観光客の方への観光ボランティアとして活躍されてい



【和気俊夫さん・和子さんご夫妻】

ます。現在、宇都宮SGGクラブ（善意通訳組織化団体）に所属され、JR宇都宮駅を中心にして、日光など県内の観光地への行き方の説明、あるいは宇都宮駅の新幹線や在来線のホームまでの案内や旧篠原家住宅への案内、さらにはお土産の紹介をしたりする活動です。外国の方から大変喜ばれています。和子さんも俊夫さんに続いてシルバー大学校中央校の37期生として入学され、現在在学中です。2020年の東京オリンピックでは、市内外から訪れる多くの観光客のために、さらに活動の場を広げようと考えているとのこと。

シニアの世代に入ると夫婦で同じ目的をもって何かをやろうとすることは本当に少なくなります。その中で和氣さんご夫妻は同じ目的で活動されています。うらやましい限りです。我々の手本として末永く頑張ってくださいと思います。

★クイズの答えは、
『全て正しい』です。

「平安時代から安土桃山時代までの500年の長い間は宇都宮氏が二荒山神社（宇都宮大明神）社務職として22代にわたり君臨していました。江戸時代には日光社参の宿城として存在感のある城下町、また五街道の追分として全国有数の宿場町として栄えていました。



【宇都宮城下復元図】

《事務局からのお願い》

- ・ 「みやシニア活動センター通信」をご覧になった、ご意見・ご感想をお聞かせください。今後の参考とさせていただきます。
- ・ 地域で活躍するシニア世代の方の情報がありましたら、みやシニア活動センターまでお知らせください。
- ・ ご意見・ご感想・シニア特派員等に関するお問い合わせは、下記までお願いします。



○ 発行／編集 **みやシニア活動センター**（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）
住所：宇都宮市中央1丁目1-15 宇都宮市総合福祉センター8階
電話：028-639-8585 ファクス：028-639-8575
ホームページ：<http://www.ci.ty.utsunomiya.tochigi.jp>